

休日の部活動の地域移行って…なに？

西川町教育委員会 お問い合わせは、学校教育課（☎74-2114）へ

国（スポーツ庁・文化庁）は、来年度から令和7年度末までの3か年で、「休日の部活動を段階的に地域に移行する」という方針を打ち出しました。報道でも取り上げられていますのでご存じの方も多いと思いますが、これは、部活動や中学校そのものの在り方を大きく変えるものです。その背景やねらい、西川町教育委員会としての今後の対応などについてお知らせします。

そもそも、どうして？

少子化

教員の長時間労働

活動種目の制限

今、中学校の部活動が直面している課題

- ・ 少子化に伴う生徒数の減少で部員数が減り、チームを編成できず大会に出られない。さらには、廃部に追い込まれるケースも増えつつあります。
- ・ 本来、部活動は生徒の主体的意志を尊重する任意加入制が望ましいと思われませんが、様々な実状から、限られた種目の中から、全員がいずれかの部を選択して所属する全員加入の学校が多い現状です。（やりたいことができない場合も）
- ・ 自ら経験がない種目の顧問を担う教員が多いため、指導が難しい上に負担感も大きく、部活動指導が教員の長時間労働の大きな要因にもなっています。（早急な対応が求められる教員の働き方改革の推進上、部活動が最も大きな課題）

つまり…子どもたちにとっても、教員にとっても、
これまで通り部活動を継続していくことが、
とても難しい状況になっているのです。

そこで、国が目指しているのが…

休日は、学校の部活動は行わないようにし、
休日も活動したい子どもたちのための環境は、
学校の枠にとらわれず地域全体で整えよう！

地域のスポーツ少年団、各種競技団体の指導者や活動者、部活動のOB、民間スポーツクラブ、総合型スポーツクラブ、希望する教員（要：兼業届）等が 休日の指導者となって…

休日の活動を地域に移行すると

○ 休日の過ごし方を、子どもたちが主体的に選択できるようになります。

休日も部活動と同じ種目に取り組み、更に上手になりたい！

中学校の部活動とは違う種目や、活動（ボランティア等）に取り組みたい！

休日は、家でじっくり学習や読書等に取り組みたい！

- 部活動だけでは触れ合えない人（地域の経験者や先輩・仲間）と交流することで、幅広い出会いと繋がりが生まれ、子どもたちの社会性が高まります。
- 地域の指導者に学ぶことで、指導者育成の好循環が生まれ、持続可能な活動環境の構築とコミュニティの活性化が図れます。
- 中学校における教員の働き方改革が促進し、授業等の教育活動の充実が図れます。

とはいえ…そのためには、クリアされるべき課題がたくさん！

中体連・大会の在り方

指導者・活動場所の確保と財源

活動場所への移動手段

自治体間の連携

保護者の負担増への対応

等々 国・中体連レベルの課題も山積



西川町では、どう進めていくの？



学校教育課と生涯学習課が一体となり、以下の3つのステップに基づいて、令和7年度末までの移行に向け、関係者や町民の皆様・学校との対話・連携のもとに、状況を整理しながら段階を踏んで取り組みを進めていきます。

- ① 関係する組織団体等（教育委員会・社会教育委員会・体育協会・各種スポーツ団体・スポーツ推進委員会・スポンサー西川等）への趣旨説明と協力・協働要請、西川中学校の部活動指導体制の実態把握と地域移行上の課題把握
- ② 子どもたちのニーズに可能な限り応えるための、寒河江・西村山地域（1市4町）連携体制の構築。（西村山市町教委連絡協議会・西村山教育長会・西村山中体連等との連携のもとに）
- ③ 上記①・②による課題の整理や対応の具体的方向を受けた活動環境の整備（財源等の確保に向けた、町財政部局等との協議に基づく予算措置等）

※ **今年度は**……西村山教育長会・中体連との協議に基づく方針に沿って学校と連携して

◎ 関係者（西川小・中学校の児童生徒・職員・保護者、体育協会、競技団体、スポーツ少年団、外部指導者、保護者会代表者等）の理解を深め、**アンケートや対話でニーズと課題を把握**します。

◎ 現在の中学校と地域指導者の連携指導体制を起点に、**可能なところから休日の活動の地域移行に取り組み、同時に対応すべき課題を整理**します。

◎ **他市町からの休日の活動参加希望がある場合は可能な限り積極的に受け入れながら、実施上の課題を整理**します。